

氏名 阿部まりな
所属 理学部 物理学科 1年
派遣先大学 ベトナム国家農業大学
派遣期間 2015年8月29日～9月12日

日本語教室での指導内容

平日と土曜日に、ビギナークラスとアドバンスクラスの授業を行いました。ビギナークラスではグループに分かれてそれに日本人が入って教え、アドバンスクラスでは現地の方が授業を行い日本人は学生の間に入ってフォローするというかたちで、どちらのクラスでも「みんなの日本語」というテキストに沿って進めました。

ビギナークラスでは授業の最初に、ひらがな・カタカナ、簡単な挨拶や言葉、テキスト（「わたしは〇〇へいきます」「わたしは（人）に（物）をあげます」など）という進度別にグループを作り進めました。私はひらがなを教えることが多かったのですが、「つ」やひゃ行、りゃ行の発音が難しいように感じました。内容が早く終わると英語と日本語を交えて日本とベトナムの生活について教えあうこともありました。

アドバンスクラスではテキストの後半ページで、日本人が普段あまり意識していない助詞の使い方や1ページ半程の長文の読解などの授業が行われました。日本人は学生が作る例文のチェックや新しい単語の意味と使い方の説明をしましたが、アドバンスクラスの学生は日本語がとても上手なため日本語で質問を受け、ほとんど日本語で教えました。また、「大きな古時計」を日本語とベトナム語で歌う練習もしました。

日本語教室以外での現地での交流活動

朝出かけるときから夜ゲストハウスに帰ってくるまで、ベトナムの学生はいつも日本人についていてくれました。平日の午後にはみんなでゲストハウスに集まってトランプや紙風船で遊んだり、日本のカップ麺を食べたり、おしゃべりをしたりと、日本の友達と居る時と同じように過ごすことが多かったです。大学前でベトナム風の蹴鞠のような遊びをしていると会ったこともない学生が次々と入ってきてくれて一緒に楽しめたことは、本当に嬉しかったです。休日には海やハノイの市街地、ホーチミン廟に連れて行ってもらいました。行きつけのパン屋さんの店員さんと顔見知りになったりベトナム人に間違えられたり、慣れればなれるほどたくさんの人と仲良くなることができました。

プログラムに参加した感想・自分の目標の達成度や努力した経緯など

今回の目標は、実際に英語で会話をして英語力を上げることでした。実際行ってみて驚いたのは、いつも周りにいてくれるベトナムの方たちはとても日本語が上手で、日本語の方が通じるということです。特にはじめの3日間はほとんど日本語しか使っていませんでした。しかしビギナーコースの授業では日本語が通じないため徐々に英語を使う回数が増えていき、しかも予想以上に通じたのです。嬉しく感じるとともに、ここはベトナムなのだから、自分から英語を使わないと英語力の向上どころか英語を話せずに終わってしまうのだと気づきました。それに気づいてからは積極的に英語で話しかけるようになり、簡単な

会話や日本の説明ができるようになりました。

今回の 2 週間の滞在で、英語力を上げるということはあまりできなかったと思います。しかし相手に伝わるような簡単な言葉で話すことといった、英語を使ったコミュニケーション能力は絶対に向上したと思います。そしてこのプログラムに参加して 1 番大きかったことは、自分の英語でも通じるという自信を得たことです。日本人の英語があるように、ベトナム人の英語もありました。それを知ったこと、英語で他国の人と会話できたという経験は大きな財産になりました。また、実際にベトナムの観光地ではないところで生活することで日本との違いをより多く感じることで視野も広がり、日本の良さも再発見できました。ベトナムの学生に刺激を受けたりと残り 3 年半の大学生活にいきる経験をたくさんできて、このプログラムに 1 年生のうちに参加して本当に良かったと思います。

今後の展望

勇気を出してベトナムに行って、英語で外国の方とコミュニケーションをとることに抵抗がなくなり、恐れずに英語を話せるようになりました。しかしまだ簡単な会話しかしていないし、今回は通じないという経験もあまりしなかったなので、次は公用語が英語の国に行きたいと考えています。そのためにもっと英語の勉強に力を入れていきたいです。また、日本でも外国の方との交流を積極的に行っていきたいです。

